日蓮大聖人御書全集

一代五時鶏図

いちだいごじけいず

新版902～913

一代五時鶏図（いちだいごじけいず）

羅什訳（らじゅうやく）　寿命三百年（じゅみょうさんびゃくねん）

百論（ひゃくろん）　法雲自在王如来（ほうぅんじざいおうにょらい）

千巻（せんかん）　仏の滅後（ほとけめっご）　三（さん）・六（ろく）・七（しち）・八（はち）

大論（だいろん）に云（い）わく「十九出家（じゅうくしゅっけ）、三十成道（さんじゅうじょうどう）」

竜樹菩薩（りゅうじゅぼさつ）　第十一馬鳴菩薩（だいじゅういちめみょうぼさつ）の御弟子（みでし）

猛（みょう）　付法蔵（ふほうぞう）の第十三（だいじゅうさん）

三十万巻（さんじゅうまんかん）　大心論（だいしんろん）　十万巻（じゅうまんかん）

大無畏論（だいむいろん）　大悲方便論（だいひほうべんろん）　十万巻（じゅうまんかん）

実大乗（じつだいじょう）

権大乗（ごんだいじょう）

二七日（にしちにち）

華厳経（けごんぎょう）

三七日（さんしちにち）

結経（けつきょう）は梵網経（ぼんもうきょう）

大乗戒（だいじょうかい）、これを出（い）だす

五教（ごきょう）を立（た）てて一代（いちだい）を摂（おさ）め尽（つ）くす

杜順和尚（とじゅんかしょう）

華厳宗（けごんしゅう）

智儼法師（ちごんほっし）

法蔵大師（ほうぞうだいし）

香象大師（こうぞうだいし）

賢首法師（げんじゅほっし）

華厳和尚（けごんかしょう）

小乗（しょうじょう）

十二年（じゅうにねん）

阿含経

結経（けっきょう）は遺教経（ゆいきょうぎょう）

長阿含（じょうあごん）

中阿含（ちゅうあごん）

増一阿含（ぞういちあごん）

雑阿含（ぞうあごん）

小乗戒（しょうじょうかい）、これを出（い）だす

定（じょう）

経（きょう）

倶舎宗（くしゃしゅう）

論（ろん）

成実宗（じょうじつしゅう）

戒（かい）

律宗（りっしゅう）

あるいは云わく法華已前　弥勒菩薩説　三時を立てて一代を摂め尽くす

あるいは云わく法華已後　無著菩薩筆　六経十一論

有相宗

深密経　五巻　瑜伽論　一百巻　法相宗　玄奘三蔵

唯識論　三十頌　慈恩大師

世親菩薩造

楞伽経　禅宗　達磨大師

あるいは諸法無行経

あるいは云わく金剛般若経

あるいは云わく大円覚経

あるいは首楞厳経

あるいは云わく一切経

あるいは云わく教外別伝

あるいは竜樹造

あるいは云わく不空造

大乗

あるいは説時不定

あるいは十六年

一巻七枚

あるいは八箇年

菩提心論

方等部

権大乗

瓔珞経　結経

大日経　七巻

善無畏三蔵

金剛頂経　三巻

蘇悉地経　三巻

顕密二道を分かち、五蔵を立つ。

あるいは十住心を立つ

あるいは云わく方等部

あるいは云わく華厳部

あるいは般若部

あるいは云わく法華部

あるいは云わく涅槃経部

真言宗

金剛智三蔵

不空三蔵

一行阿闍梨

あるいは一代諸経の外

難行・易行　曇鸞法師

聖道・浄土　道綽禅師

双観経　善導和尚

観経　懐感禅師

阿弥陀経　少康法師

浄土宗　法照

雑行・正行

諸行・念仏

三十年

あるいは云わく二十二年

あるいは云わく十四年

光讃般若

金剛般若

天王問般若

摩訶般若　大品般若

般若経

仁王般若　結経

百論　提婆菩薩造

中論　竜樹菩薩造

十二門論　同

大論　同

あるいは云わく四論宗

あるいは法性宗

あるいは無相宗　浄影

三論宗　興皇

三時を立て　嘉祥寺の吉蔵大師

一代を摂め尽くす　道朗

あるいは二蔵を立つ

あるいは三転法輪を立つ

華厳三七日、阿含十二年、方等・般若三十年、已上四十二年なり

法界性論に云わく四十二年

無量義経に云わく「方便力をもっての故に、四十余年にはいまだ真実を顕さず」

また云わく「無量無辺不可思議阿僧祇劫を過ぐるとも、終に無上菩提を成ずることを得ず。所以はいかん。菩提の大直道を知らざるが故に、険逕を行くに、留難多きが故なり」

また云わく「大直道を行くに、留難無きが故なり」

法華経（ほけきょう）

普賢経（ふげんぎょう）　結経（けっきょう）

叡山戒壇（えいざんかいだん）

諸宗依憑宗（しょしゅうえびょうしゅう）

仏立宗（ぶつりゅうしゅう）

天台宗（てんだいしゅう）

法華宗（ほっけしゅう）

秘密宗（ひみつしゅう）

顕露彰灼宗（けんろしょうしゃくしゅう）

「世尊（せそん）は法久（ほうひさ）しくして後（のち）、要（かなら）ず当（まさ）に真実（しんじつ）を説（と）きたもうべし」

前四味なり　あるいは云わく前四教　あるいは云わく前三教　あるいは云わく先の三教に円教を摂め尽くす

廃なり

「正直に方便を捨てて、ただ無上道を説くのみ」

四時・七教、五時・八教　　唯一仏乗

「種々の道を示すといえども、それ実には仏乗のためなり」

「はた、魔の仏と作って、我が心を悩乱するにあらずや」

「久しくこの要を黙して、務めて速やかには説かず」

（已）　華厳経・大日経・深密経・楞伽経・大品経・観経等

（今）　無量義経　　（当）　涅槃経等

「我が説くところの経典は無量千万億にして、已に説き、今説き、当に説くべし。しかもその中において、この法華経は最もこれ難信難解なり」

記の六に云わく「たとい経有って『諸経の王なり』と云うとも、『已今当の説に最もこれ第一なり』とは云わず。兼・但・対・帯なること、その義知るべし」

玄の三に云わく「舌口中に爛る」

籤の三に云わく「已今当の妙、ここにおいて固く迷えり。舌爛れて止まざることは、なおこれ華報なり。謗法の罪は、

苦長劫に流る」

また云わく「諫暁すれども止まず」

第六の巻　法の四依　人の四依

「法に依って人に依らざれ」

「義に依って語に依らざれ」

仏智　菩薩等の識

一日一夜

涅槃経

八十御入滅　七十九、八十、八十一、「智に依って識に依らざれ」

八十二、百五、百二十　法華経　爾前の経々

像法決疑経　結経

「了義経に依って不了義経に依らざれ」

主上（しゅじょう）
天尊（てんそん）
世尊（せそん）
主（しゅ）
法王（ほうおう）
国王（こくおう）
人王（にんのう）
天王（てんのう）

魔醯修羅天（まけいしゅらてん）
毘紐天（びちゅうてん）
大梵天（だいぼんてん）
第六天（だいろくてん）
帝釈天（たいしゃくてん）

二天（にてん）
天竺（てんじく）
師子頰王（ししきょうおう）
浄飯王（じょうぼんおう）
震旦（しんたん）
三皇（さんこう）

違すれば八虐（いはちぎゃく）

五帝（ごてい）

三王等（さんおうとう）

日本国（にほんこく）

神武天皇（じんむてんのう）

外道の師（げどうし）

迦毘羅（かびら）

釈尊（しゃくそん）

師（し）

三仙（さんせん）

瀘楼僧伽（うるそうぎゃ）

勒沙婆（ろくしゃば）

尹喜（いんき）

務成（むせい）

師匠（ししょう）

六師（ろくし）

違すれば七逆（いしちぎゃく）

外典の師（げてんし）

章安釈　四聖　老聃

涅槃疏に云わく　周公旦　呂望

「一体の仏、主・師・親と作る」　孔子　顔回

違すれば五逆　八親

親　六親

世尊　三界特尊　二十五有

「今この三界は、皆これ我が有なり」

理性の子　結縁の子

「その中の衆生は、ことごとくこれ吾が子なり」

文句の五に云わく「一切衆生等しく仏性有り。仏性同じきが故に等しくこれ子なり」

娑婆有縁の仏

「しかるに今この処は、諸の患難多し。ただ我一人のみ、能く救護をなす」

玄の六に云わく「本この仏に従って初めて道心を発し、またこの仏に従って不退地に住す」

文句の六に云わく「旧は西方の無量寿仏をもって、もって長者に合す。今はこれを用いず。西方は仏別にして縁異なり。仏別なるが故に隠顕の義成ぜず。縁異なるが故に子

父の義成ぜず。またこの経の首末に全くこの旨無し。眼を閉じて穿鑿せよ○舎那の著脱は近きすらなお知らず。弥陀は遠きに在り。何ぞかつて変換せん」云々

記の六に云わく『西方』等とは、弥陀・釈迦の二仏既に殊なり。あに、弥陀をして珍玩の服を隠さしめ、乃ち釈迦をして弊垢の衣を着せしめん。しかれば釈迦に珍服の隠すべきもの無く、弥陀のみただ勝妙の形なるに当たらん。いわんや、宿昔の縁別にして化導同じからざるをや。結縁は生のごとく、成熟は養のごとし。生・養の縁異なれば、

父子成ぜず。珍・弊途を分かち、著・脱殊に隔たる。経を消するに事闕けて、調熟の義乖く。当部の文に永くこの旨無し。『舎那の著脱』等とは、舎那の動ぜずしてしかも往くことに迷う。弥陀の弊を著することは、諸教に文無し。もし平等意趣を論ぜば、彼此いずくんぞかつて自ら矜らん。たとい他をば我が身となすも、還って我が化を成ず。我、他の像を立つるも、乃ち他の縁を助く。人これを見ざれば、化縁便ち乱る。故に知んぬ、夫の結縁はならびに応身に約することを。『我昔かつて二万億』等と云うがごと

し。いわんや、十六王子、始めより今に至って機感相成じ、任運に分に解す。この故に、彼の弥陀をもってこの変換となすべからず」

種・熟　東方有縁　主

第一、阿閦仏　師

脱　親

大通の太子

種・熟　西方有縁　主

十六王子

第九、阿弥陀仏　師

沙弥

脱　親

種・熟　娑婆世界　主

第十六、釈迦牟尼仏　師

脱　親

記の九に云わく「初めこの仏菩薩に従って結縁し、またこの仏菩薩において成就す」

玄の六に云わく「仏なお自ら分段に入って仏事を施作す。有縁の者何ぞ来らざるを得ん。譬えば、百川の応須に海に潮ぐべきがごとく、縁に牽かれて応生すること、またかくのごとし」

また云わく〈前にこれを書く〉「本この仏に従って初めて道心を発し、またこの仏に従って不退地に住す」

劣応身の釈迦如来　本尊

盧舎那報身　勝応身に当たる

釈迦如来　勝応身に当たる

倶舎宗

成実宗

律宗

華厳宗の本尊

法相宗の本尊

釈迦如来　法身　胎蔵界

大日如来　報身　金剛界

天台は応身　劣応・勝応

阿弥陀仏　善導等は報身

三論宗の本尊

真言宗の本尊

浄土宗の本尊

五百問論に云わく「もし父の寿の遠きを知らずんば、また父統の邦に迷う。いたずらに才能と謂うとも、全く人の

子(こ)にあらず」

三皇(さんこうい)已前(ぜん)は父(ちち)を知(し)らず、人皆(ひとみなきんじゅう)禽獣(おな)に同じ

華厳(けごん)のるさな、真言(しんごん)の大日等(だいちにとう)は皆(みな)この仏(ほとけ)の眷属(けんぞく)たり

久遠実成実修実証(くおんじつじょうじっしゅじっしょう)の仏(ほとけ)

天台宗(てんだいしゅう)の御本尊(ごほんぞん)

釈迦如来(しゃかによらい)

始成(しじょう)の三身(さんじん)

応身(おうじん)

報身(ほうしん)

有始有終(うしうしゅう)

有始無終(うしむしゅう)

真言(しんごん)の大日等(だいにちとう)

法身　無始無終

応身

報身　無始無終

法身

久成の三身

華厳宗・真言宗の無始無終の三身を立つるは、天台の名目を盗み取って自らの依経に入れしなり